

令和元年度社会教育・公民館等職員研修会Ⅳ・コミュニティづくり研修会 2

実施要項

1 ねらい

人口減少の中に、公民館の原点を貫き、展開している事例を通して地域再生そして創生を見通した実現可能な社会をつくる視点と地域創生のための次世代へつなぐ手段について学ぶ。協働した地域づくりについて研究討議等を行いながら、これからの地域コミュニティ活性化へ向けた方策を検討する機会とする。

2 主催 宮城県教育委員会、宮城県公民館連絡協議会

3 日時 令和元年12月10日（火）午前9時55分～午後4時00分
（受付：午前9時30分～）

4 会場 宮城県行政庁舎 講堂

5 対象

市町村等教育委員会職員、公民館等社会教育関連施設職員、社会教育主事等社会教育関係職員、コミュニティづくりに関わる関係部局等職員、地域づくりに関心のある民間企業や団体 等

6 内容

時程	次第	内 容
9:30 9:55	受付	
9:55 10:00	開会行事	○ 諸連絡等
10:00 10:40	事例紹介	○ 「(仮) 人口減少地域にみんなが集える公民館を目指して」 発表者：白石市白川公民館 事務長 佐藤 寿見夫 氏 白石市白川振興会議 副会長 小野 琢磨 氏
10:40 11:50	ワークショップ	○ テーマ「ワン・チームをつくる」 ファシリテーター：地域社会デザイン・ラボ 代表 遠藤 智栄 氏
11:50 12:50	昼食・休憩	
12:50 13:40	事例紹介	○ 「(仮) 地域の未来を話し合う場をつくる ～ファシリテーターの具体を学ぶ～」 発表者：地域社会デザイン・ラボ 代表 遠藤 智栄 氏
	休憩	
13:50 14:40	講話	○ 「(仮) 豊かな学習・活動を継続・発展させるために」 講師：社会教育推進全国協議会 委員長 谷岡 重則 氏
14:50 15:40	ワークショップ シンポジウム	○ テーマ「人口減少時代に求められる公民館をめざして ～地域の未来を地域みんなで考えあうために～」 コーディネーター：東北大学大学院教育学研究科 准教授 石井山 竜平 氏 パネラー：白石市白川公民館 事務長 佐藤 寿見夫 氏 白石市白川振興会議 副会長 小野 琢磨 氏 地域社会デザイン・ラボ 代表 遠藤 智栄 氏 社会教育推進全国協議会 委員長 谷岡 重則 氏
15:40	振り返り	
～16:00	閉会行事	○ 諸連絡等

人口減少時代に 求められる公民館をめざして

～地域の未来を 地域みんなで考えあうために～

今年度最後の研修会は、あらためて、「社会教育施設が目指すべきはいかなる空間なのか」、その核心を確認しあう機会を目指します。

近年は、公民館の運営の地域委託が少なからず広がっています。そうした現場では、公民館や社会教育についての基礎・基本を学ぶ機会がないまま、施設の運営が任されていることが少なくありません。

そうした状況でも、「地域に館が果たすべき役割は何か」が、運営の担い手や住民間で考え合わせ、これからの地域に求められる「公民館像」を見定め、そこに近づける努力を重ねる現場が、少なからず存在します。

白石市・白川公民館もそうした館の一つです。地域委託後は一時期、年配世代の一部の利用しかなかった時期がありながらも、その後、地域から学校がなくなるという事態を受け、「地域の人世代を超えて集い、話し合える空間を目指さなければ」との努力と工夫を重ねられてきました。こうして、専門的な知識を持たなくとも、公民館のあるべき姿と、そうした転換を導き出してきた努力の具体を学びます。

また、白川公民館では現在、「みやぎ県民大学」を活用することで外部ファシリテーターを迎え、再び地域を見つめ直し、地域の未来を検討する地域にひらかれた話し合いを開始しています。こうした「話し合い」はいかなる仕掛けと配慮で成り立つのか、どうすればその話し合いの質が建設的なものになるのか。ファシリテートの基本的考え方と技術を、実際に白川地区を支援していらっしゃる、遠藤智栄さんに学びます。

さて本研修では、宮城・東北に限定せず、全国の社会教育関係者と繋がり、学び合う機会づくりも目指しています。この度は、東京より元・世田谷区社会教育主事、谷岡重則さんにお越しいただきます。谷岡さんは、職務を全うするためにも、全国の社会教育職員や研究者と繋がり、学び合うことを一貫して大事にされてきました。そして現在は、社会教育推進全国協議会の委員長を担われ、全国の社会教育関係者のネットワーク形成に尽力されています。そんな谷岡さんの世代の社会教育職員は、力量形成をいかに図ってこられたのか。そうした経験からは、中教審答申（2018年12月）など、社会教育をめぐる近年の政策動向をどう見ていらっしゃるのか。こうした知見にふれながら、今日の社会教育の置かれている状況や、社会教育職員が向き合うべき課題の所在を、それぞれの地域を越え、全国的、歴史的視座から捉え直す機会を目指します。